



発行日
平成30年2月22日

Vol. 67



発行所
関西配管工事業協同組合
〒531-0071
大阪市北区中津1-2-19
新清風ビル7階

TEL(06)6371-5905 FAX(06)6371-9544

編集者
事業部・教育情報部
HP:<http://www.kankan-club.or.jp/>
E-mail:jimu@kankan-club.or.jp



関西配管工事業協同組合機関誌

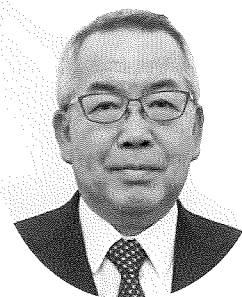
も く じ



●新春を迎えて」庄司真之理事長	2
●新年賀詞交歓会開催	3
●組合員・賛助会員懇談会開催	5
●3団体懇談会開催	6
●4団体協議会開催	7
●B C P策定説明会開催	8
●竹中工務店との意見交換会に出席	8
●大阪で配管基幹技能者講習会実施	8
●大阪管材展に協賛・参画	8
●配管コンテストに選手派遣	8
●レッキスで講習会開催	9
●受検対策実技講習を実施	10
●横浜で日管連全国青年部会開催	12
●理事会 議事要旨	14
●新組合員・新賛助会員／お悔み	14
●立花忠夫氏寄稿	15
●大阪府・優秀建設施工者表彰	16

新春を迎えて

若者が「夢と希望」を持って働ける業界へ



理事長 庄司 真之

新年明けましておめでとうございます。平成30年の年頭に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

平素は、当組合に対しまして何かとご協力を賜り誠に有り難うございます。本年もより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

昨年6月に理事長に就任をさせて頂きました。田中理事長、高井理事長、斉藤理事長、玉川理事長と続き、私が5代目ということになります。今回は、組合の将来のことも考え、従来の5名の理事に加え、新しく若い4名の方に理事をお願いしました。9名の理事と1名の監事の体制で活動して参ります。歴代の理事長同様、皆様方のより一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

当組合は、「技能の伝承と若手技能工の育成」を主目標に活動を続けて参りました。これからも、引き続き「若手技能工の育成・教育」を柱に活動を続けて参ります。

若い人が、「夢と希望」を持って働ける配管業界を作ること。親御さんが自分の子供を働かせたいと思う業界にすることが組合の目標であり、私の目標です。

若者に目を向けてもらうためには、給料も含めた大幅な待遇改善を行う必要があると思います。非常に難しい問題ですが、力を合わせて魅力ある業界にすることがわれわれの使命ではないでしょうか。

幸い、建設業界は「2020年の東京オリンピック・パラリンピック」に向けて非常に忙しい状況が続いております。予定されている仕事量が多すぎ、職人不足も重なって、全てをこなせないのではないかという話も耳にします。それ程、職人不足は深刻です。われわれにとりましては絶好のチャンスです。

「腕の良い配管工は引く手あまたです。配管工は人間の生活に欠かせない水を扱う重要な仕事です。将来も決してなくなる必要ありません」等を積極的にPRし、配管工業界のイメージを少しでも上げ、若い人や女性の入職者を増やすことができればと思っております。

平成4年6月に関西配管工事業協会を設立し、平成8年9月には関西配管工事業協同組合へと発展させ、順調に活動を続けて参りました。平成29年1月27日には「組合設立20周年記念祝賀会」を盛大に開くことができました。これから30周年に向けて、今までの伝統を守りつつ、ITを活用した新しい事業にもチャレンジし、現場で汗する配管工が誇りを持って、一生を通して働くことができる業界にするよう、配管工業界の社会的地位の向上を目指して組合活動を続けて参ります。皆様方の更なるご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年賀詞交歓会開催

一賑やかに成年スタート



年頭挨拶を述べる庄司理事長

組合の新年賀詞交歓会は1月25日午後5時30分から大阪市都島区の太閤園で開催し、賑やかに新年の挨拶を交わして「成年」がスタートしました。

賀詞交歓会には竹中工務店、大林組のゼネコン、関連団体、教育機関、組合顧問からの来賓、組合員、賛助会員など合わせて86名が出席し、小阪武司副理事長の司会で進められました。

年頭挨拶に立った庄司真之理事長は、昨年の組合設立20周年祝賀会への参集にお礼を述べたあと、「平成29年度では若い4人の新理事が役員として組合活動を支えていただくことになり、体制は大きく若返った。引き続き技能の伝承と若手技能工の育成に力を注いでいきたい」と年頭の挨拶を述べました。さらに、庄司理事長は、国



城口氏（左）と岸本氏（右）が来賓挨拶

が主導している『働き方改革』について触れ、「建設業界ではゼネコンサイドですでに具体的スケジュールを立てて取り組まれているが、当業界の取り組みはこれからであり、適正な受注価格と工期の獲得、待遇面の改善、週休2日の実現など困難な課題が横たわっているが、抜け道を探すことなく真正面から取り組んでほしい」と呼

びかけるとともに、「若者や現場で汗して働く技能者が夢と希望を持って一生働きたいと思う業界づくりにまい進する」と決意を示しました。

来賓紹介に続き、大阪空気調和衛生工業協会の城口俊雄副会長が来賓を代表して「設備業界にとって担い手の確保が最重要な課題。関西配管組合さんは技能の研修・



新年の門出を祝って乾杯

平成30年 新年賀詞 関西配管工事業協同 西配管工事業協同 西配管工事業協同



来賓挨拶する（左から）竹中工務店・吉川次長、大林組・種田統括部長、布施工科高校・植田校長

講習活動に力を注いでいることに敬意を表するとともに、当協会の配管技能コンテストに多大なご協力をいただいております、引き続きご支援をたまわりたい」と挨拶しました。大阪府中小企業団体中央会・連携支援部の岸本貴志主幹の発声で乾杯したあと賑やかに交歓しました。

途中、来賓の竹中工務店大阪本

店の吉川淳次長と大林組大阪本店の種田裕統括部長がそれぞれ登壇し、働き方改革について「現場に携わる皆様の意見を聞きながら進めていきたい」と期待を込めて祝辞を述べました。また、布施工科高等学校の植田篤司校長は同校生徒も出場する配管技能コンテスト（大阪空気調和衛生工業協会主催）への協力にお礼を述べるととも

に、「産業教育・職業教育は現場重視に徹したい」と実業教育に一段と注力する考えを述べました。

宴半ばには賛助会員が次々と自社PRを展開しました。最後に今年度の総会で選任された4名の新理事が壇上で紹介されたあと、玉川義光副理事長の音頭で威勢よく大阪締めを行い、「戊年」の躍進を誓い合いました。



壇上で紹介される新理事（左から立花、朝倉、中道、斉藤の各氏）



玉川副理事長の音頭で大阪締め

組合員・賛助会員懇談会を開催

業況と人材確保で情報交換

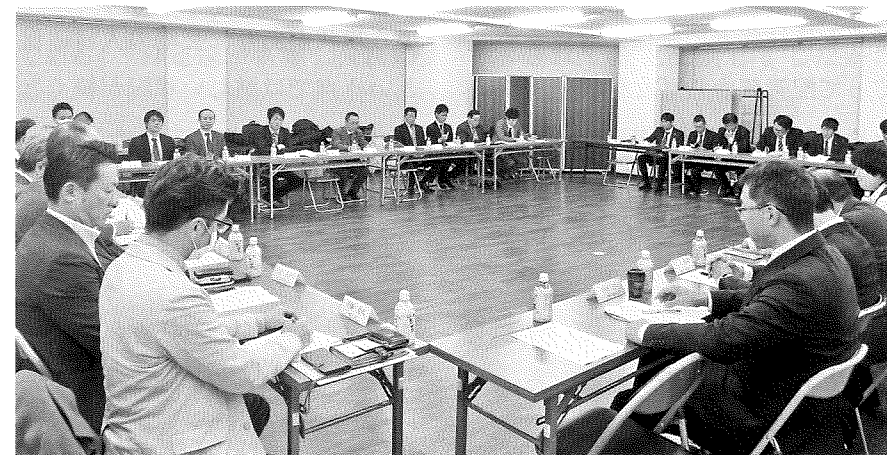
第8回「組合員・賛助会員合同懇談会」を昨年12月6日に当組合事務局近くの三栄ビル会議室で開催し、業況や人材確保などについて情報交換しました。

懇談会には組合員、賛助会員合わせて39名が出席し小阪武司副理事長の司会で進められ、最初に庄司真之理事長が参集にお礼の言葉を述べるとともに、組合役員の新体制を説明し、さらに、当日出席の新組合員と新賛助会員を紹介したあと、情報交換に入りました。

この中で業況については、「サブコンの話を見ると、冷媒配管メインのところと一般配管メインのところでは業況に差があり、冷媒の仕事量がやや少ないとのこと。冷媒では以前は半年先まで仕事が見えていたが、今は3カ月ぐらい」（組合員）、「来年いっぱいまで仕事がある」（組合員）と分野により若干の差があるものの、やや繁忙状態にある現状がうかがえ、「主要都市に販売網を持っているが、関西の配管関係の景気は動いている」（賛助会員）という見方がこうした状況を裏付けました。

材料面については、「配管（SGP）に回る高炉メーカーの鉄材が減少傾向で、ある高炉メーカーのメッキ工場の不具合もあってメッキ管が減少している。こうした状況から製品の取り扱いとなっており、各商社とも前倒し発注をし

ようとしている。また、鉄管継手メーカー数社が値上げを発表しており、2018年3月ぐらいで値上げの足並みが揃うとみている」（流通賛助会員）、「鉄管などについてはすこぶる忙しい東京のほうに流れていき、品薄が加速するのではないか」（流通賛助会員）などの状況が報告されました。



人材面については、現在の繁忙状態と関係が深く、「仕事は確保できているが、慢性的な人手不足になりそうである。人材確保は縁故関係が貴重である」（組合員）、「募集しているけど入ってこないし、入ってきてもすぐに辞めてしまう。あんまり経験者は入ってこない」（組合員）、「若い人たちにはわれわれが思っている以上にケアが必要なのではないか。たとえば、トイレや更衣室、さらに現場も選ぶ必要がある」（組合員）などの意見が出ました。

このほか、「お金も休みもほしいというのが現代の若者気質。就職担当の先生に聞くと、大手、中

堅などに入らず、行くところがなく中小零細企業に入る人が多い」（組合員）、「親が求人を確認するので中小企業の配管職には反対される」（組合員）、「正直なところ、通常の求人スタイルでの人材確保はあきらめている。一方、退職された人の繋がり確保できる場合もある」（組合員）などが報告されました。また、「人を増やすには賃金をあげなければならない。そうすればモチベーションもあがる」（組合員）、「賃金の底上げは極めて

大切なことで、組合として何か運動を起こす必要がある」（組合員）などの意見も出されました。

また、〈助け合いネット〉についても話がおよび、「非常に興味がある。たとえば、エンドユーザーから直接、クレームなどで施工の依頼があったときも利用できるのか」（賛助会員）との問いに組合の同ネット担当者からは「最終的には当事者同士の契約になるので、出会いでマッチングする分には問題ない。ただ組合はその契約には責任はもてない」と回答しました。

第42回「3団体懇談会」開く

技能者の確保・育成対策を模索

当組合と近畿ダクト工事業協同組合（ダクト工事団体）、近畿保温保冷工業協会（保温保冷工事団体）で構成する「3団体懇談会」は11月28日、大阪市北区鶴野町のグラン・アーモTAMAHIMEで第42回会合を開き、「建設技能者の人材確保・育成」などについて情報交換を行うとともに、今後の取り組みを模索しました。

人材問題では、とくに若手技能者・女性技能者の確保・育成をめぐる配管側から「女性技能確保をめざしてモデル現場を作ってもらっている。女性技能者のモデルケースでは、朝礼をiPadで済ませ、9時の作業開始も認められている。これを水平展開していきたい」という例が報告されました。



一方で、「女性の登録基幹技能者がいるが、家庭との両立は難しそうである」、「若手育成、就業のためキャンプを運営したり、インターンシップを実施したりしながら募集しているが、大きな効果はみられない」という実情が報告されました。また、「ベトナム実習

生はまじめで技能面の問題もない」などの意見がありました。

ダクト側からは「一種の製造業なので騒音問題もあって郊外の工場になってしまい、人材が集まりにくい。日本人が来ないので、ベトナム実習生でやりくりしているケースがある。ただ、ベトナム実習生は3年たって帰国すれば、母国の待遇がよい（幹部待遇）ため、再来日しないことが大半」という現状があり、長期の人材確保という点では厳しい状況が続くという見方が示されました。さらに、「ダクト現場は外国人を受け容れない。人手不足の中であるが、外国人技能者の就労はきわめて難しい」とする意見が出されました。

保温保冷側からは「当業種は内作も多く、手元工はあまり必要ではない。職人さんの娘を採用し、戦力になったが、これらはレアケースである。現場のイメージが悪く、理想と現実のギャップが大きい」とする状況が報告されました。

3業種全体として、「若者の就

職は認知度のある企業が優先される。業種を問わず、業界全体としての認知度を高める必要がある。新卒者の一番の条件は、給料ではなく、週休2日制を重視しているとの感触を受けている。土木、建築を含めた建設業の認知度向上が先決であり、3団体が力を合わせて努力する必要がある」などの意見が出されました。

設備工事における重層下請状況については、配管、ダクトから「発注会社によって違う。ブローカーを排除するためなのか不明である。丸投げ禁止や社会保険の問題も絡んでくる。自然淘汰になるのかどうか、当分は見守りたい」とする意見が出され、保温からは「下請企業は3次で、あまり影響はない」とする状況が示されました。

配管組合が取り組んでいる「事業継続計画（BCP）」と「助け合いネット」についても意見が交わされました。配管組合から「関東組合が先行している取り組みで、当組合も研究を始めている。たとえば、中小企業では社長が亡くなった場合、銀行書類や印鑑などで困難な状況になり、これらにあらかじめ備えておく必要があるなど様々な面から準備しておきたいとしてBCPの取り組みを進めたい。とりあえず、組合員の安否確認のシステムを作成中である」などの状況が説明されました。さらに、「現場MAP、単価表、物件情報での応援対応、システム開発費用、ルールづくりなど課題が多くあり、今後、地道に研究を進めていきたい」との説明がありました。

4団体協議会を開催

「働き方改革」などで意見・情報交換

当組合、近畿ダクト工事業協同組合、近畿保温保冷工業協会と大阪空気調和衛生工業協会（大空衛＝サブコン団体）で構成する4団体協議会の26回会合が昨年11月27日に大空衛事務局のある新トヤマビル3階の会議室で開かれ、「社会保険未加入問題」、「働き方改革」「建設キャリアアップシステム」などで意見・情報を交換しました。



会合には4団体から8名が出席。最初に保険未加入問題について事務局から「建設工事における社会等未加入対策の取り組み強化」と題する資料の説明に続き、意見交換しました。この中では、「ゼネコン、サブコンから現場入場の業者に社会保険に加入するよう指導はされているが、現場では特にトラブルは起こっていない」「スーパーゼネコンからは、グリーンサイトで確認し、加入していないと指導を促す文面がきた」「今のところ、一人親方の扱いについては何も聞かない」といった

状況が報告されました。

次いで、「働き方改革」については、事務局から「建設工事における適正な工期設定等のためのガイドライン」が説明されたのに続いて意見交換が行われました。この中で、「最近、官庁からの改革推進の指導もあり、ゼネコン内で意識が高まっているようで、アンケートを取りながら調査は始めている」「日建連が本腰を入れ始

めて、現場を進めながら変更することが多い。工程通り進まない理由のひとつ」「設計事務所の力が弱くなっているのも気にかかる。顧客に対して強くいえない背景があるのでは」などの意見が出て、働き方改革には多くの課題があることが浮き彫りになりました。

「建設キャリアアップシステム」については事務局から資料が示されて意見交換しましたが、

めだが、本来もっと早くに推進方を打ち出すべきだった」などの意見が出されました。ただ、一方で、「50代の労働者が多い中、数年後、現場で人数を確保できるであろうか。現場の待遇よりも金銭面と人材確保の比重が高くなる恐れがある」「天候に左右される職種でもあり、また工程が守られていないのが現実で、設備ばかりにしわ寄せがくる。どのゼネコンも工期が遅れ、倍ぐらい人材を確保しないと現場が納まらず、職人不足は深刻な問題といえる」「前工程の段階で昔に比べて短くなって

「何をやりたいのか意図が見えてこない」「中小企業を中心としたコスト負担に配慮した格好だが、登録料などすぐには難しい」「ID化にすることで若い人を意識しているつもりだろうか」「職人としての腕を客観的に評価するにしても、評価基準もあいまいで職人の引き抜きなど起こり得る」「グリーンサイトとの棲み分けが必要ではないか。できれば一元化してほしい」といった様々な課題が出されました。

BCP策定説明会を開催

組合は昨年10月26日に組合事務局近くの三栄ビル3階会議室で組合員向けに「BCP（事業継続計画）策定説明会」を開催しました。

組合にとってBCPの策定は組合の役割や機能を考えることになり、組合員にとっては自社の経営を見つめ直す絶好に機会となります。

今回の説明会には組合員18社が出席し、組合青年部会・斉藤竜久副部会長の司会で進められました。庄司真之理事長の開会挨拶に続き、「事業継続計画（概論編）（資料編）」のテキストを基に、社会保険労務士で中小企業診断士の園原昌一氏が概要説明を行いました。

このあと、ホーセック(株)・毛利正幸氏から「助け合いネット」と連動した「建設タウン」の情報共有システムについてプロジェクターを使っでの説明が行われ、最後に、大阪府商工労働部中小企業支援室経営支援課の原口千恵子副主査から大阪府としての取り組み方の概要説明が行われました。

竹中工務店／設備協力会社との意見交換会に出席

組合は、昨年12月13日に竹中工務店大阪本店で開催された同社と設備協力会社との意見交換会に出席し、働き方改革などについて意見を交わしました。

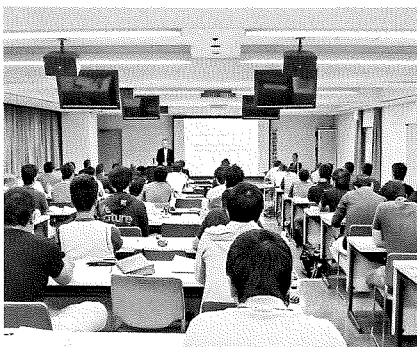
意見交換会には竹中工務店から

吉川淳・大阪本店次長をはじめ12名、設備協力会社から12名（12社）、当組合から庄司真之理事長はじめ12名の計36名が参加し、竹中工務店設備部の江藤忠人専門役の司会で進められ、同社の道永剛設備部長の挨拶に続いて意見交換しました。

この中では、作業所の4週6休制度の取り組みなど働き方改革のほか、プレハブ配管や樹脂管を用いた作業所の生産性を上げる取り組みについて3者それぞれの立場から意見を出し合いました。最後に、竹中工務店・吉川次長の閉会挨拶で終了しました。

大阪で配管基幹技能者講習実施

平成29年度の登録配管基幹技能者講習は四国（徳島市）、近畿（大阪市）、九州（佐賀市）、関東（東京都小平市）の全国4ブロックで実施され、近畿では昨年9月28～30日の3日間、大阪市中央区のエル・大阪で開催されました。



当組合は最終日の30日に庄司真之理事長、玉川義光副理事長、小阪武司副理事長、中野広造理事を講師として、山中淳市事務局長を準備員として派遣し、登録配管基幹技能者講習に協力しました。

大阪管材展に協賛・参画

大阪管工機材商業協同組合主催の「第18回管工機材・設備総合展 OSAKA2017」が昨年9月7～9日の3日間、大阪・南港のインテックス大阪4号館で開催され、当組合も協賛団体として参画し、来場呼びかけなどで協力しました。



開会式でテープカットに臨む
当組合の庄司理事長（中央）

今回は、メインテーマに「体“管”実“管”“管”動発信」を掲げ、181の企業・団体が322小間（前回308小間）に出展するなど過去最大規模での開催となり、前回（1万4622人）を上回る1万5073人の来場者で賑わいました。

大空衛の配管コンテストに当組合員から選手派遣

昨年8月19日に東大阪市の府立東大阪高等職業技術専門校で開催された大阪空気調和衛生工業協会主催の第9回配管技能コンテストに当組合は選手を派遣しました。

コンテストは、次代の優秀な技能者の育成をめざし、全国の空調衛生設備団体の中で唯一、同協会が実施しているものです。

今回は現場の第一線で活躍する技能者21名（一般の部）、建築設備関連の学科を履修中の高等職業技術訓練校、高等学校など5校から学生・生徒21名（学生の部）が参加して腕を競いました。

レックスで講習会開催

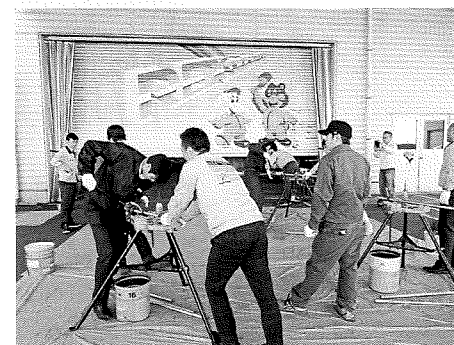
手動ねじ切りと新製品知識習得

組合は昨年12月2日（土）に大阪府東大阪市のレックス工業本社工場で講習会を実施し、受講者は1級配管技能士検定に向けた手動ねじ切りの実習、東尾メックの新商品知識修得とレックスパイプマシンによる正しいねじ加工などを学びました。

講習会には24名が出席し、平成29年度の1級技能士検定に備えて12月開催の組合主催・受検事前講習（南大阪高等職業技術専門校）の予習を兼ねて行われました。

この講習会は毎回、レックス工業の全面的なバックアップにより実施されており、今回で18回を数えます。この日も土曜休業日にもかかわらず同社幹部・技術スタッフが出勤し、研修をサポートしていただきました。

冒頭、玉川義光副理事長（教育情報部会長）はレックス側に感謝の言葉を述べるとともに、「1級配管技能士の資格を取り、さらに上級の登録配管基幹技能者の資格取得をめざし、後に続く人たちを指導していただきたい。また、近年は新しい配管工法が開発されて



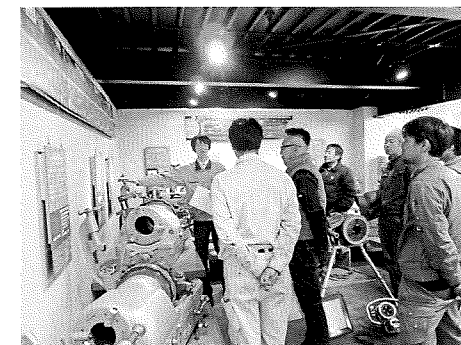
手動ねじ切りの実地講習



東尾メックによる新商品紹介



レックス工業による、ねじ加工実演



レックスミュージアム見学

おり、新時代の配管技術を学んでほしい」と激励を込めて挨拶しました。

講習では、技能検定に必須のパイプの手動ねじ切りについて、レックス工業の担当者からレクチャーを受けながら実習しました。また、同工場に隣接する「レックスミュージアム」でパイプマシンをはじめ、各種配管機器の歴史を学

びました。

このあと、東尾メックの営業グループ・橋一成氏により、同社が開発した新工法・施工のステンレス薄肉管用拡張式継手「KKベスト」の商品説明が行われました。同継手は「易施工」をコンセプトに開発された商品で、本体とナットの締結にネジを使用せず、従来の配管作業現場で使用されてきた

レンチなどの工具も不要となる新施工を実現したものです。

引き続き、レックス工業からは大西規夫氏による「正しいねじ接合と転造ねじ」、「不良ねじを作らない、ねじ加工機の使用」の解説が行われ、ねじ加工の実演も行われました。

技能士受検対策実技講習開催

受検本番さながらの实地研修



平成29年度の1級配管技能士検定(30年1月)へ向け、組合では昨年12月16日(土)と17日(日)の2日間にわたり、大阪府和泉市テクノステージの大阪府立南大阪高等職業技術専門校で受検対策実技講習を行いました。

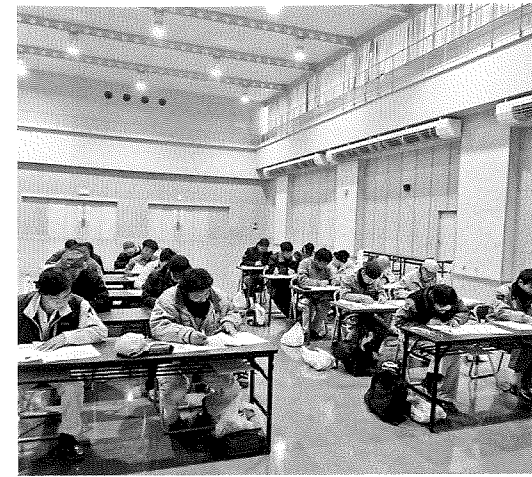
講習は、これに先立ってレックス工業で実施した予備講習に続く本格的な実技講習で、当組合役員や熟練技能者が指導員となり、両日とも午前9時から午後5時まで

昼食をはさんでみっちり行われました。今回は、1級配管技能士の受検予定者20名が出席し、銅管、塩ビ管、銅管の切断や管継手との接続など受検本番さながらの講習に取り組みました。

初日の午前中は、オリエンテーションに続き、澄川史朗講師による「材料取り・ペーパーテスト」の講習(座学)が行われ、最後に配管図から材料を拾い出して材料表を作成する練習問題試験が実施さ

れました。

午後の実技講習では、まず玉川義光副理事長が受検に向けての心構えや実技の要項を説明しました。この中で玉川副理事長は、組合が独自に作成した「実技テキスト」に基づき、作業の細かいコツなどを交えて作業手順を説明しました。課題作品製作に先立ち、パイプを真っ直ぐ切断するため、その要項説明が行われ、それに基づいて各自が切断したサンプルを提



材料取りのペーパーテスト

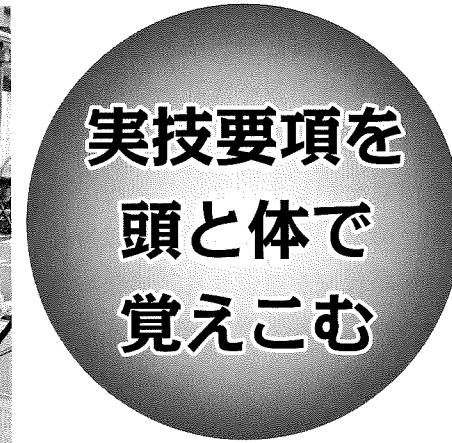
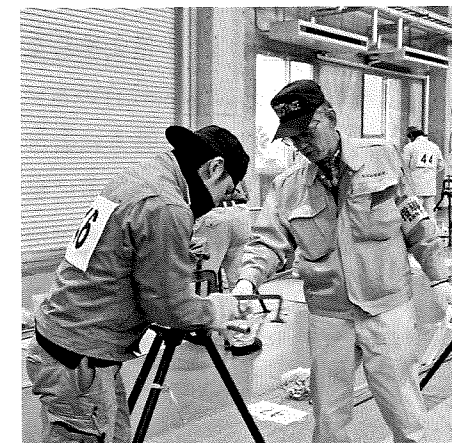
出させて指導しました。

このあと、宮本泰仁講師と池成信夫指導員が銅管の手動ねじ切りと銅管の溶接の模範実技を行い、それぞれの作業の要点などを実技で指導しました。

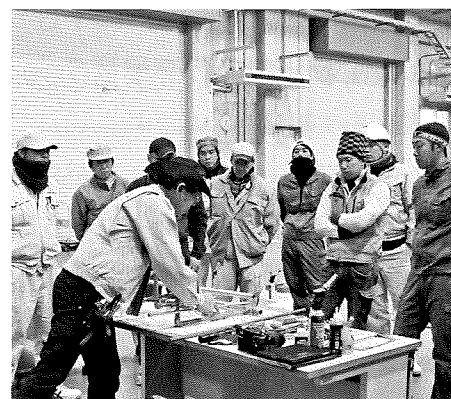
引き続き、実技講習に移り、指導員が受講者の間を細かく巡り、配管作業の指導に当たる中、受講者は切断、接合・接着、配管組立などで作業試験の課題作品づくりに取り組みました。

2日目は、午前中、前日の材料取り練習問題試験で及第点に達しない受講者は補講を受け、あとの受講者は前日の反省を交えて実技講習を受けました。

午後は受検本番と同じ時間で課題作品づくりに挑戦しました。受講者は3時間30分かけての模擬検定作品の製作に懸命に取り組んで完成させ、指導員から寸法採点、水圧テストを受けて反省点を洗い出し、受検本番に備えました。



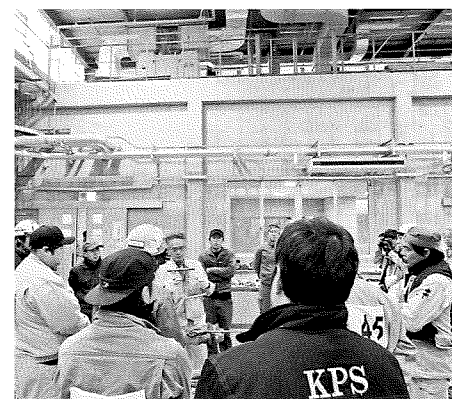
実技要項を
頭と体で
覚えこむ



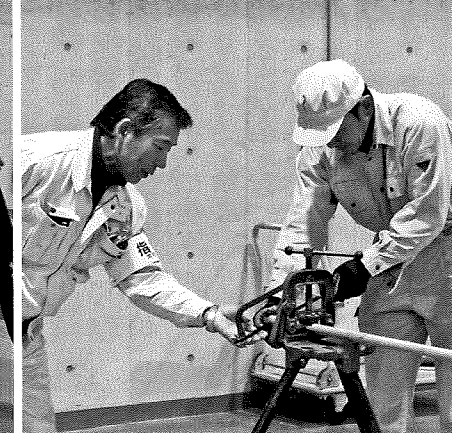
実技の前に作業要項の説明



銅管ねじ切りの模範実技



銅管溶接の模範実技



横浜で第8回部会開催

日本配管工事業団体連合会傘下の各地区団体青年部会で組織する日管連・全国青年部会（部会長朝倉博昭氏＝関西団体）の第8回部会が昨年10月20日に横浜で開催されました。

今回は関東配管工事業協同組合青年部（松原政敏部会長）の担当で開催されたもので、意見交換会を開き、活発な交流を通じて青年部会活動の活性化への方策を模索しました。



残せなかったが全国にネットワークが広がったことは貴重だった。このネットワークを次に生かし、日管連青年部として更なる飛に向け新体制を築いてもらいたい」と退任の挨拶をし、それを受けて松原政敏・新部会長が「選任された以上は2年間しっかりと務めて、各地区の部会長をはじめ会員の皆様と組合を盛り上げていきたい」と決意を示しました。

このあと、各地区の近況報告及び活動状況が発表され、活発な意見交換が繰り広げられました。

各支部からの近況報告では、関西団体の齊藤竜久・副部会長が〈日管連・助け合いネット〉の近況報告を行いました。同ネットは、職人不足・仕事不足の情報を共有する場がなく、機会損失が発生している現状の打開策として、全国の会員が運営サイトを通じ、「応援を依頼したい会社」と「仕事を求める会社」の情報を共有し、ビジネスチャンスにつなげていく試み

です。

齊藤氏の報告では今後に向け新しい可能性として、関東でも取り組まれているBCP（事業継続計画）に関して、専門家の支援を受けて作成に取り掛かり、10月末に組合員向けに第1回説明会を開き、いざとなった時の備えをしようと呼びかけました。助け合いネットに関連性を持たせることによって、全国の取り組みをWebに集約し、情報を共有しあい業界環境改善に貢献するというものです。

助け合いネットに関して各地区から質問が飛び交い、今後は全国組織で運営していくことを確認しあい、会員増員・組織基盤の拡充など様々な課題に対し、全国青年部会が協力し合いながら力を注いでいくことで意見が一致しました。

関東団体の賛助会員による新製品・技術紹介が行われたあと、場所を移して懇親会を開催しました。席上、改めて松原部会長が日頃の組合活動に謝辞を述べ、開催地区を代表して関東団体の親組合・関



関西団体からの出席者

東配管工事業協同組合・西尾雄二理事長が挨拶し、横浜で有名な中華料理を堪能しながら、賑やかに交歓しながら親睦を深めました。

▽

◇各地区団体の概況報告◇

【北海道】札幌市は再開発など10年先までは安定している。ただ消費税がいつ上がるかで景気が左右される。経費込みで単価は2万6000円くらい。溶接工は3万円を超えている。今までのように安請け合いをせず、組合員数を増やし単価を引き上げる必要がある。

業界に入る人が減っているのもデメリットをPRし早急に対処しないといけない。現在、札幌近郊の企業しか加盟していないので、幅広く会員を増やしていきたい。

【東北】東日本大震災から6年が経ち、実感として復興工事は終盤に差し掛かっている。現場は減少傾向にあり、職人不足によって

請負規模が縮小傾向にある。単価は震災前の1万4000円前後から2万5000円前後と大幅にアップした。若手人材が入ってこない。

病院などが多いが、来年は工場関係が増えてくる。青年部の活動として、東北のサブコンさんの人材育成センターにおいて若手の社員を対象に現場での災害の模擬試験を体験させてもらった。

【関東】オリンピックのメインスタジアムの客席のコンクリートが打たれて形がだいぶ見えてきた。実際に忙しくなるのは2017年の年末あたりからだろう。

【中部】会員数は徐々に増えてきている。青年部は月1回の定例会、情報交換を行っている。名古屋駅前から都心部にかけて老朽化した大手デパートや劇場などの改修工事が始まっている。景気がいいのか都心部は建て替え工事が増えている。現状は非常に忙しい。



懇親会のもよう

人材不足が深刻化し、新規雇用も高校生らに打診して東北からお願ひしてたりする。大手ゼネコンさんの担当者も派遣社員が増えやりづらくなっているようである。単価は2万5000円前後である。

【関西】現場の動きはホテルなど大型物件が動きだしているが、他府県に比べ忙しくはない。単価は2万円前後。

青年部活動については、親会で理事の改選があつて青年部から4名が理事に選任されて風通しがよくなった。社会保険の未加入問題、見積勉強会、新商品の説明会や工場見学など積極的に活動している。助け合いネットに関して、活性化までは至っていないが、実体感として便利なものだという手応えをつかんでいる。

【中国】山陽側（岡山・広島・山口）は、岩国の米軍基地関連が落ち着き、広島駅周辺の再開発や広島市内の老朽化のビルの新築、改修工事が増えてきている。山陰側（島根・鳥取）は工場が多く、それに関連する新築、改修工事が増えている。鳥取県では地元業者だけでは足りず、作業員の確保に苦労している。作業員不足は解消されていないので求人を出しても、入ってこない。慢性的な人手不足が続くだろう。

【九州】熊本震災から1年が経ち、復旧がだいぶ進み、熊本中心に建物の建て直し、長崎新幹線に伴う駅の工事と福岡での空港の改修工事が期待できる。組合活動は3カ月に一度、会合を開き11月に技能士の勉強会を開いている。全体的に人手不足で若手が足りない。

理事会 議事要旨

【29年9月】

- ①組合決算関係書類・税務関係書類提出報告と役員変更届提出報告並びに登記事項完了報告
- ②大空衛主催の第25回4団体協議会出席報告
- ③大空衛主催の第9回配管技能コンテスト開催結果報告
- ④日管連平成29年度第12回定時総会・懇親会・理事会出席報告
- ⑤賛助会員からの組合脱退申し出の件
- ⑥第18回技術研修会開催日程と要領作成について
- ⑦各組合員に対するBCP対策説明会開催日程について
- ⑧その他

◇大阪府立北大阪高等職業技術専門校の平成29年度（9月～11月）テクノ講座実施案内と訓練生募集依頼について◇第3回関西配管工事業協同組合と㈱竹中工務店大阪本店との意見交換会開催日程について

【29年10月】

- ①平成29年度認定職業訓練配管科1級技能士コース修了報告
- ②日管連・平成29年度第8回全国青年部会開催に伴う関西配管組合青年部会からの参加者報告
- ③平成29年度第2回近畿地区会場「登録配管基幹技能者講習」終了報告
- ④新規賛助会員の組合加入申し込み諾否について
- ⑤平成29年度1級配管技能検定受検対策実技講習開催要領作成について
- ⑥第8回組合員・賛助会員合同懇談会開催要領作成について
- ⑦平成30年新年賀詞交歓会開催要領作成について
- ⑧その他

◇組合と㈱竹中工務店との意見交換会開催日程延期について◇組合ホームページの見直しについて

【29年11月】

- ①組合員向けBCP策定説明会開催結果報告
 - ②新規組合員の組合加入申し込み諾否について
 - ③第42回3団体懇談会開催に伴う当組合からの提案事項の検討
 - ④平成30年度認定職業訓練配管科1級技能士コース実施計画作成について
 - ⑤その他
- ◇組合員・賛助会員合同懇談会開催日程変更について

【29年12月】

- ①第18回技術研修会終了報告
 - ②日管連理事会出席報告
 - ③第8回組合員・賛助会員合同懇談会運営順序の打ち合わせ
 - ④その他
- ◇大阪府立北大阪高等職業技術専門校からの依頼について◇関西配管工事業協同組合・設備協力会社・㈱竹中工務店意見交換会開催について

【30年1月】

- ①大空衛主催の第26回4団体協議会出席報告
 - ②第42回3団体懇談会出席報告
 - ③平成29年度1級配管技能検定受検対策実技講習修了報告
 - ④第43回3団体懇談会開催に伴う当組合からの提案事項の検討
 - ⑤平成30年新年賀詞交歓会の運営順序の打合せ
 - ⑥その他
- ◇平成30年2月定例理事会の休会について

【新組合員】

㈱センチュリー・パル

代表者 池光 泰榮氏
〒530-0044
大阪市北区東天満2-4-15
MORIビル2階
Tel.06-6355-7530
Fax.06-6355-7540

㈱ビルド

代表者 小島 一訓氏
〒607-8334
京都市山科区川田欠の上32
-20
Tel.075-591-6712
Fax.075-591-6712

【新賛助会員】

杉中工業㈱

代表者 杉田 欣昭氏
〒557-0061
大阪市西成区北津守3-1-32
Tel.06-6562-1971
Fax.06-6568-7178

お悔み

加藤 猛氏（前組合理事・前㈱テイ・エムプラント社長）

昨年9月に逝去されました。加藤猛氏は平成11年から昨29年まで当組合理事を18年間という長きにわたり務められ、組合活動、業界の発展に貢献されました。ご冥福をお祈りいたします。

なお、同社社長には加藤正治氏が就任しております。



株式会社 藤尾設備工業所
会長 立花 忠夫

昨年末から年初にかけては格別に厳しい寒さが続きました。組合員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

私事ではございますが、昨年5月25日の第21回通常総会を持って理事を退任させていただきました。理事・副理事長を20年間務めてまいりましたが、組合員の皆様のご協力ご支援があつてこそと心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、国際政治経済ではトランプ大統領就任で北朝鮮の核ミサイルなど、東南アジア紛争が懸念されます。また、世界的にも地震・豪雨・洪水・土砂崩れなどの災害が数多く発生しました。国内では安倍政権の続投が決まり、経済回復株価上昇と新聞を賑わせていますが、デフレ金融緩和は継続しており、国民生活においては増税が次々と予定されています。本当に景気は良くなっていくのでしょうか。

また、少子高齢化の加速、人材不足が深刻な問題となっていま

今年度の通常総会（昨年5月）で役員任期満了に伴い、20年という長きにわたり役員（副理事長・理事等）を務められた立花忠夫氏が勇退されました。業界・組合で培われた豊富なご経験に基づく、組合への期待の言葉をご寄稿いただきました。

す。優秀な人材が大企業に流れ、景気回復の恩恵も大企業のみが受けているのではないのでしょうか。

平成24年1月26日の組合新年賀詞交歓会で、（故）斎藤昭一理事長が年頭のご挨拶で「今年こそわれわれの業界が景気回復し、活気ある一年になることを期待したい。近年は工期・工程コストが厳しいことに加え、安全について年々求められることが厳しくなっている。つい厳しいことばかり頭に浮かんでしまっていた訳ですが、本来楽しくやりがいのある業界です。かつて松下幸之助翁は『物に魂を与えた物が商品』であると言われていました。本来『現場に想いを入れた物がお金をもらえる配管』だったのではないのでしょうか。初心に返り楽しくやりがいがあるモノ造りの業界にしたいと思います」と述べられました。

現場こそ、われわれの想いを詰めた商品を作る仕事場です。バブル崩壊後の25年間、デフレが続く中でわれわれが生き残ってきた理由は、少ない工事を糧として自ら創意工夫をし、需要を作ってきたことにあり、まさに、〃営業は現

場で、をモットーに自社の仕事は自社で開拓していく努力が大切だと考えてきたからです。

誰もが魅力的だと思う工事物件であっても困難はつきものです。工期・工程、コスト、安全・他業種との兼ね合い、この業界の難しいところです。工事の完成時には、仕事を誇りに思い、感激することもあります。この楽しさ、感動を若い人達に経験してほしいです。

組合も世代交代が順調に進み、庄司真之さんが新たに五代目理事長に選任されました。玉川義光副理事長、小阪武司副理事長、各理事と共に若い力で、組合事業の認定職業訓練配管科1級技能士コースをはじめ、技術指導・教育訓練に取り組み、若い技能士の技術・地位の向上に努めていただきたいと思います。

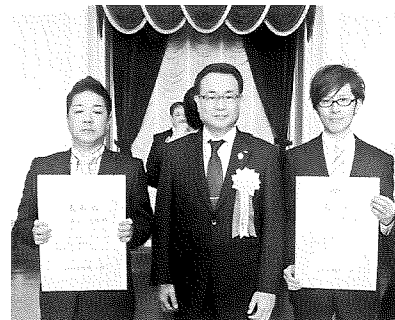
また、組合の力が集結してゼネコン・サブコン業界との協議の場を持ち、組合が健全で安定した運営がなされ、業界リーダーとしての地位向上を目指し、すべての組合員とその家族が安心して平和な暮らしが継続されることを願っています。

大阪府「優秀建設施工者」表彰 当組合員企業から2名受賞

平成29年度「優秀建設施工者」
大阪府知事表彰式典が2月8日に
大阪府庁で開催され、熟練工部門
で17名、青年部門で10名の計27名
が表彰されました。当組合からは
熟練工部門で(株)ツカサの森山道盛

氏、青年部門で同社の前田大輝
(ひろき)氏が大阪府知事表彰を
受けました。

式典では、表彰実行委員会代表
の挨拶に続き、竹内広行大阪府副
知事が挨拶し、竹内副知事から受
賞者27名に表彰状・記念品が授与
されました。



竹内副知事を中に
森山氏(左)と前田氏(右)

事業主の皆さん、 労働保険に入っ ていますか？

労働者を1人でも雇っている事
業主は労働保険に加入する義務が
あります。労働保険とは「労災保
険」と「雇用保険」を総称したも

ので、労働者を1人でも雇用され
ている事業主の方は、労働保険に
必ず加入しなければなりません。

お問い合わせ先

◇労災保険制度については

労働基準監督署へ

◇雇用保険制度については

ハローワーク（公共職業安定
所）へ

【労働保険事務委託団体・労働保
険事務組合】

関西配管工事業協同組合

【労災保険・特別加入団体】

関西配管工事業協同組合・一人
親方組合

安心



活気



やる気



働くみんなに 退職金効果！

中退共は、国がサポートする中小企業のための退職金制度です。

安全

国の制度だから安心
掛金の一部を
国が助成します。

有利

掛金は全額非課税
手数料もかかりません。

簡単

社外積立だから
管理もラクラク
転職先でも引き継げる
「通算制度」があります。

- パートタイマーさんや家族従業員もご加入いただけます。
- 他の退職金・企業年金制度等とのポータビリティも可能です。

詳しくはホームページを
ご覧ください

中退共

検索

<http://chutaikyo.taisyokukin.go.jp/>



独立行政法人勤労者退職金共済機構
中小企業退職金共済事業本部

〒170-8055 東京都豊島区東池袋 1-24-1
TEL (03) 6907-1234 FAX (03) 5955-8211